

日本神話：ウガヤフキアエズ

兄に打ち勝ったヤマサチヒコは、喜びの知らせを受けます。彼は豊玉から、もうすぐ子供が生まれるので、出産するための小屋を建てておくようにと言われたのです。彼女によると、天の神々の子孫が海に生まれてはならないため、この建物は陸にあるべきだということです。ヤマサチヒコは妻のために小屋を建て始めますが、鵜の羽でできた屋根が完成する前に妻の陣痛が始まってしまいました。小屋の中に入ったトヨタマは、子供が生まれるまでは見ないでほしいとヤマサチヒコに懇願します。しかし、ヤマサチヒコはその誘惑に抗えず、海の娘であるトヨタマが巨大なサメに変身している姿を見てしまいます。正体を暴かれたトヨタマは、生まれたばかりの赤ん坊を残して嘆きながら海へと帰って行きました。この子供には、「鵜の羽でできた屋根が間に合わなかった者」を意味するウガヤフキアエズという可哀想な名前が付けられました。ウガヤフキアエズは、トヨタマの妹・タマヨリに育てられますが、彼の成人後、2人は結婚します。

日南市の鵜戸神社では、ウガヤフキアエズがご神体として祀られています。この地方の伝承によると、鵜戸神社がある海岸の洞窟が彼の生まれた場所とされています。